

# わたらせ渓谷鐵道地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間  
22～23年度

わたらせ渓谷鐵道を「知ってもらう」「乗ってもらう」、そして「満足してもらう」ための施策を実施し、定期外旅客数の増加を目標とする。

## 【わたらせ渓谷鐵道活性化協議会】

群馬県、栃木県、桐生市、みどり市、日光市、JR東日本、東武鐵道、わたらせ渓谷鐵道、わたらせ渓谷鐵道市民協議会

### 事業の概要(22年度)

#### ①イベントの開催

- ・沿線各駅でのイルミネーション点灯  
(全駅17駅・12/5～2/28)
- ・イルミネーション点灯期間中の企画列車の運行(23回運行)

事業費 1,041,900円

#### ②鐵道PR

- ・わたらせ渓谷鐵道マスコットキャラクター(わっしー)の開発
- ・キャラクターの着ぐるみ作成

事業費 860,000円

#### ③沿線観光などの情報提供

- ・沿線ガイドマップやリーフレット作成・配布
- ・わたらせ渓谷鐵道HP機能向上  
(HP動画機能、メール会員機能、トロッコ列車座席管理システム機能を追加)

事業費 2,478,300円



## 22年度 導入への プロセス

わたらせ渓谷鐵道再生協議会(群馬県、栃木県、桐生市、みどり市、日光市)で、わたらせ渓谷鐵道再生基本方針に基づき、わたらせ渓谷鐵道(株)が行う経営再建を促進するための行政支援を行っている。

わたらせ渓谷鐵道沿線地域は人口の減少傾向が顕著であるため、定期利用者の増加は見込めない状況です。一方、沿線地域には、美しい渓谷など観光資源が数多く存在しています。また、わたらせ渓谷鐵道は列車の運行自体が観光資源と考えられているが、かならずしもそれらが輸送需要に結びついていない状況であります。

## 22年度 事業の 効果

### マイレール意識の高揚

わたらせ渓谷鐵道イルミネーション事業については、各駅のイルミネーションの飾り付けは、地域住民や各種団体のボランティアによって実施されている。

平成22年度から2駅増えて全駅(17駅)が、イルミネーションに彩られ、乗客を楽しませています。

### 観光利用の促進

イルミネーションイベントとして、イルミネーション列車を23回企画し、ほとんどのツアーで、定員に達し、冬期には減少してしまう、観光旅客の確保に貢献した。

## 次年度 以降

### 課題 (観光等の利用促進強化)

- ・生活利用(定期利用)の促進には限界があり、定期外旅客の利用促進を図る必要がある。
- ・輸送人員減少傾向の中、安定した乗客を確保しているトロッコ列車であるが、利用者からは運行本数が少ない、乗り継ぎが不便など不満も多い。
- ・よって、わたらせ渓谷鐵道や沿線観光資源などのPRと、トロッコ列車の利便性・サービスの向上や、観光資源の魅力向上等による利用促進を図る必要がある。

平成23年度は、平成22年度事業を継続して実施するほか、イベント車両(自走式トロッコ列車)を導入して、運行本数や運行日数の増加及び発着駅の延伸を実施して、観光旅客の増加、輸送力増強、利便性向上を図る。